



高校生×議員

～東海大学付属福岡高等学校～

宗像市議会では、次世代を担う若者に、少しでも議会の存在を身近に感じてほしいという思いから、高校生との意見交換を行いました。1回目は令和元年6月26日に宗像高等学校と、2回目にあたる今回は、11月13日、東海大学付属福岡高等学校3年生の葛城昂（すばる）さん、壇ちひろさん、小仲寿明（としあき）さん、大里愛花（まなか）さん、今井潤（じゅん）さん、太田晃平（こうへい）さんと、広報編集部の小林栄二議員、井浦潤也議員、上野崇之議員で意見交換を行いました。議場見学や模擬採決も体験してもらいました。

◆議会や政治について

上野：今日は宗像市議会に来てくれてありがとうございます。議場に入るのは初めてかと思いますが、みなさんは議会や政治に興味関心はありますか。

葛城：税金の使い道とか、そういうところに興味があります。

今井：私は政治経済の授業で学んでいて政治が面白いなと思ったので、詳しく知りたいなと思いました。



壇：私は、テレビなんかではよく見ますが教科書で見たら文字しかないので、実際はどんな感じなのか全然分からなくて、それで興味を持ちました。

小仲：政治家という職業にあまり知識がなくて知らないことが多いので、少し興味があります。

大里：テレビとかでこういう場が映る感じがあって、そういう話をしていられるかと思って、少し興味がありました。

太田：インターネットのニュースとかで政治経済について少しだけ見たことが



あるんですけど、そこではあまり興味が湧かなくて深追いはしてなかったんですが、大学では経済学部に進むので、これからの経済や政治について知りたいなと思いました。

上野：小林議員、井浦議員から何か一言ありますか。

小林：議会というところは、市民のみなさんの声を聞きながら、いかにみなさんの声を届けるのか、そしてまちがど

んな方向に進んでいくか。例えば、沖ノ島が世界遺産に登録されましたよね。世界遺産登録のためには、20年にわたる活動がありました。そして、宗像大社など宗像に来ていただけるように我々は活動をやってきています。そこは私の好きな分野でもありますが、私はそういう思いで政治に携わっています。

井浦：政治ってテレビで見たりするんですけど、重い話をしてさうだと思っただけですけど、今日、ここに来たこと自体がもうすでに政治に参画してるんですよ。それと、みなさんにお願ひした事前アンケートに書かれていたように、帰り道が暗いと気づいたことは、政治につながるんです。ですから、みなさんが目の前の困ったことに気付いて、どうやって解決するんだろうというのがある。もう実は政治に参画しているということなんです。そう思うと、何も難しいことではないでしょう。それを私は伝えたいと思います。

上野：市民のみなさんの小さな気付き、素朴なつぶやきを含めたいろんな声を議員は受け止めて、まちの課題解決であるとか、一方で、10年20年先のま

ちづくりをそれぞれの視点から提案していくというところが議員の活動であるということでした。

◆宗像の好きなところ・残念なところ

上野：事前アンケートの中で、自然が多いとか海や夕日がきれいといった意見や、一方で、ごみが捨てられてるという回答もありましたので、具体的に聞かせて下さい。

今井：私が自然豊かな場所だと感じたところは、赤間駅の近くの裏にある一本道で、左右を見渡しても田んぼが広がっているの、落ち着く場所だなと感じました。

大里：私は寮から自転車通学してるんですけど、そのとき、光岡の田んぼ道の途中に工場みたいなのがあって、カントリーエレベーターですかね。そこから見える夕日がすごくきれいで、立ち止まって写真を撮ったりするくらいそこが好きです。

小仲：私は玄界灘がとてもきれいだと思っています。一面青い海が広がっていて、夕方に行ったら夕焼けも見られてとてもきれいだと思いました。



壇：中学生のときに城山に登りに行って、頂上から山とか木とかが多く見えて、やっぱり宗像は自然が多いからそのまま大切にしたいなと思いました。
上野：自然の風景が守られているのは、実は、条例や都市計画、また市民団体による活動などによる部分もあります。議員はどう思いますか。
小林：玄界灘は、地域の方々が美しく手入れされています。これからも景観を守っていくための活動が必要ですね。それから今、災害対策としても、できるだけ自然を守っていく必要があると思います。みなさんにもぜひ関心を持ってもらいたいと思います。

井浦：今、小林議員が言われたように、市と清掃活動をしてくださっているボランティア団体や学校などと連携をすることで、きれいな海が守られています。それから田んぼの風景がきれいだという意見がありました。市の計画で、農業をする場所、工場や家を建ててもいい場所などを決めていっているので自然が守られているんですよ。
上野：みなさんが日常的に見て気に入っている風景にも、実は行政やいろんな人たちの力が働いています。議会も検

討したり意見を言ったり。それから市民の力を借りて一緒に守っています。
次に、太田さん、世界遺産があるのは良いところだけど、一方で映画館がないのが残念だとアンケートに書いてくれました。これについて聞いてもいいですか。

太田：これはクラスのみんなどか寮生の子たちと話し合った結果なんですけど、宗像市を知らない人に宗像市のことを伝えるときに、まず世界遺産があるって言えるところが良いところかなと。世界遺産に登録されたことで宗像市の知名度も上がったのかなとみんなと話してました。残念なのは、映画館って若者とか今の学生とかが一番求めているものなので、宗像市にそういうところがあればほかの市からもいろんな人が来るんじゃないかなと思って。
上野：今の太田さんの意見について、何か意見はありますか。

葛城：県外に行ったときに、自分の学校の周辺の魅力として世界遺産があるという話をしたことがあります。駅の周辺とかには店とかがいっぱいあって、とても過ごしやすい環境であるのではないかなと思います。

◆困ったこと・気づいたこと

上野：これからは困ったこと、気づいたところで改善が必要なんじゃないかなと思ってるような話を深めていきたいなと思ってます。事前アンケートには困ったこととして、ポイ捨て、通学路が危険、夜が暗くて怖い、バスの本数が少ないといったことが書かれました。これに対して議員がどのように考えているのか聞いていきたいと思っています。

井浦：まず、道が暗いという件ですが、街灯を設置しようとする自治会は市に要望を出して、認められれば市と自治会で半分ずつ費用を負担します。じゃあ電気代はどうするかと言ったら、自治会が払うことになりました。なので、街灯の設置には自治会の総意が必要になります。それを経て初めて街灯が一つできることになりました。

それからバスの本数が少ないことについてですが、実感したことはありませんか。
太田：3号線の近くにバス停がないなって思ってます。ネットでバス停を調べたんですが、20分待ちで。一緒に待ってた



壇：家から学校まで信号が多いんですけど、一旦停止しない車とか、黄色信号でも突っ込んでくる車とか、何回かぶつかりそうになったことがあるので危ないなと思いました。
井浦：特に登校中、朝が多いですか。
壇：どちらかというと夜の方が多いです。道が空いているということもあるんだと思います。



「高齢の方と、バスの本数少ないね」という話をしました。

井浦：たぶん西鉄バスじゃないかなと思うんですけど、西鉄バスに増便のお願いとかはしています。ただ、西鉄バスは民間企業ですから、乗客数とか利益



とかも考えないといけないので難しいところもありますよね。でも、市民の声は伝えていかないといけないので、教えていただいてありがとうございます。

上野：今井さんから、店が少ないという意見がありました。小林議員は実は飲食店を経営されているんですが、この意見について何かありますか。

小林：基本的には店は民間の経営になるので行政が入ることはできないんですよね。道の駅とかは行政が関わってま

すけど、やはりコンビニなどの場合は民間になるので難しいですね。

井浦：やっぱり収益がないと経営ができませんので、そこは市や議会としても、どうぞとは言いますけど保障できないですね。私たちがお金払えるわけじゃないので。そのあたりはやっぱり難しいところがありますね。

上野：事前アンケートに書いていただいた困ったことの中で、壇さんが勉強施設が少ないので遠出しなければならぬと書いてくれてますが、これについて少し聞かせて下さい。

壇：試験前に友達と勉強する場所を探してなんですが、月曜日だったのでコミュニケーション・センターが開いてなくて、黒崎まで行ったこともあります。

上野：ほかのみなさんは、自宅や学校では勉強しつらくなって、どこか施設などに行って勉強することはありますか。

葛城：河東コミセンに行ったりします。試験前だと学生が多くて席が空いていないときもありました。

小仲：主に学校に残って勉強しています。

上野：同じように、自宅や学校以外で勉強場所が無いと感じている人はいますか。

太田：自分は自宅とか学校で済ませるので特にはないですね。

今井：私も自宅で勉強します。



大里：自分は寮でやりたいけれど、周りがあるまで集中できないときに勉強場所を探し回ったことがあるんですけど、なかなかなくて、結局うるさい中で勉強しました。

上野：葛城さん、生徒会長として、勉強する場所が足りないですって学校に直訴してみても、議会も、課題に気づいてそれをどう解決するか考えて提案していくというのも議会の活動としてい

ます。ほかに、事前アンケートに書いたこと以外でも結構ですが、何か意見

はありますか。

太田：学校から赤間駅に行く道に自転車の数が多くて危ないところがあります。



をアピールできるようなイベントがあってもいいと思います。

上野：ありがとうございます。

◆議員の活動・議員を目指した理由

上野：事前アンケートでは、議員の日頃の活動や議員を目指した理由、議員のやりがいや大変なことについてご質問いただいておりますのでお答えしていきます。

小林：私が議員を目指した理由は、青年会議所という団体があるんですが、最初は嫌々で入ったけれども、役員になっ

ていきたい、このまちを誇れるまちにしていきたいという思いで政治家を目指しました。

井浦：私は小学校・中学校でPTA会長をしていました。今も高校でPTAの副会長をしてるんですけど、生徒さんと接する機会が多いんですね。若者と接する中で、もっとこういう風に変化があったらいいなとか、そういうことを感じることもありました。実は私も

もともと衆議院議員の秘書を15年ほどやっていて、少し政治の仕事には関わっていたので、何か役にたてないかなと思って議員を目指しました。議員

のやりがいとしては、市民の要望を議会で提案して、それが形になったときがやっぱり嬉しいですね。具体的に言うと、地域に防犯カメラを設置するとい

う制度はなかったんですが、地域からの要望もあって議会でいろいろと提案した結果、今では制度化されました。それに対して、ありがとうございますって

いただいたことが嬉しくて、すごくやりがいを感じました。

上野：私は宗像市の日の里というところで生まれ育って、今もそこに住んでます。昔は賑やかだった場所、お店があっ



た場所がどんどん寂れていったりとか、実際に昔の自分の経験から比較してみたときに、子どもや孫の世代にこのま

ちをしつかり残していきたいし、次の世代が活躍できるまちにしたいという

ふうに思った時に、もちろん議員という形でなくても地域の中でできることがいろいろありますので、私も祭りに

関わったりとかいろいろしているんですけど、一方でそれだけでは届かない

ような声もありまして、それも議員になりたいと思った一つの大きな理由と

して、私は今も活動しています。やりがいや苦労に関して言うと、これ表裏

持ってくれないというパターンも大いにあります。そういう人たちをどこかでつないでまとめていくというのがやりがいであるのと同時に苦勞でもあるなと思っています。

みなさんこれから大学に行かれたり、社会人になられたりする中で、こういう議員とかの仕事ではないと思いますが、いろんな意見に翻弄されて悩む時があるかと思います。そういう時に、ぜひ先輩の大人の人たちにどうやって乗り越えていったか、やりがいもあるだろうけど苦勞もあるだろう。いろんな意見をまとめていったりつないでいくっていうところを日常的に議員が政治活動としてしているところをどう



こかで気づいていただけたら、私たちもそのときにまたやりがいがある仕事だということの説明が深まっていくのかなという気がします。みなさん自身に政治っていうものとかまちづくりの難しさとかを将来感じてもらえるようになっていただきたいなと思いますし、私たちもそのために頑張っていきたいというふうに思います。

◆本日の感想

上野：最後にみなさんに今日の感想を聞いていきたいと思っています。

葛城：大学で政治経済学部に進学するんですけど、学校の生徒会活動や政治的な活動などいろいろと関わることが多いと思うので、将来に生かせたらいいなと思います。

壇：議場に入るのは2回目なんですけど、こういった場所に入るのはちょっと緊張します。でも、議会などの大勢の前で意見を言えるのはすごいと思うし、些細なことでも話し合ってもらって意見が反映されるなら、いろんなことに気づいて、少しでもまちがよくなるように協力できたらいいなと思います。



した。

小仲：議員席に座るといって貴重な経験もできて、さらに議会や政治に興味がわきました。

大里：街灯を一つつくるにも人手やお金がかかるのを知って、簡単なことではないことが分かりました。大学はスポーツ科に進むので、あまり政治の方面にはかかわらないけど、議員の方々がみんなのために何かしてあげたいっていうのが伝わってきて、それはどの職業でも一緒だと思うので、今後に生かしていきたいと思います。

今井：私は議会や政治に興味があったので、議員の普段の活動とかいろいろ話

を聞けてとても良い経験になりました。太田：今回の意見交換を通して、議会活動や政治について少し知ることができました。私たちは18歳になったので今後の選挙にもちゃんと参加して、政治についてもっと知りたいし、大学でも経済を学ぶので、その分野で生かせるいいなと思います。

小林：今日はみなさんの素直な意見が聞けました。我々も、地元の身近なことから意見をいただいて市政に生かしていきたいなと感じました。今日はどうもありがとうございました。

井浦：今日、みなさんは自分の目で見て感じていることを言われていたと思います。最初に申し上げたように、この場に来たこと、疑問を抱いたこと、ここをこうしたらいいなと思うことが、もうすでに政治に参画していると思います。政治活動という大変なふうに聞こえるかもしれませんが、そうではない、私はみんなが関わってくれるというのが政治だと感じました。これから大学に行かれて、いろんなことを学んで、ちょっと気づいたことをどう改善しようかという目標を持ってくれると

私たちと同じ目線なので、一緒に考えられるかなと思います。今日はありがとうございました。

上野：高校生のみなさんが日頃感じている良いところも悪いところも含めて、私たちがどう受け止めて課題解決に結びつけていくか、今日の意見を参考にさせていただきながら今後、解決に向けて進んでいきたいと思っています。

小林：最後に、これからみなさんは本当にいろんな壁にぶつかるとは思いますが、支え合って切り抜ける強さをもっていただきたいと思います。その中で、何かあればぜひ我々のところにも相談に来てください。

自分自身の生活を改めて見てもらう

と、いろいろな気づきがあったと思います。その気づきが政治につながります。みなさんの生活をより良く変えていくには、選挙に行くことがそのきっかけになります。選挙権を得たら、しっかりと自分で見聞きして、選挙に行ってもらいたいと思います。

東海大学付属福岡高校のみなさん、本日にありがとうございました。

